

学術情報総合センター

Media Center

1996年10月に完成した学術情報総合センターは、222万冊の蔵書を有する国公立大学最大級規模を誇る図書館と、情報処理の中核を担う計算センター及び情報処理教育という3機能を統合した“インテリジェントビル”であり、充実した教育・研究環境がそろった秀麗な創造空間です。学術と文化が交流するグローバルな情報の拠点ともなっています。



マルチメディア型図書館

Library

図書・雑誌

広くて明るい開架閲覧室等には20万冊の図書を開架し、約1,200席の閲覧座席を設置しています。また雑誌閲覧室には約6,000タイトルの新着学術雑誌と国内外の新聞約50紙を展示しており、福田文庫やアダム・スミスの「国富論」初版本など、世界的に貴重な書物も納められています。平日は9時から22時まで、土曜日は10時から17時まで利用できます。

電子図書機能・マルチメディア

インターネットにより、図書・雑誌の目録情報や全文データベースを24時間提供しています。また本学が所蔵する貴重書や、大阪の各地域にある古文書など価値の高い学術資料をデータベース化しています。メディア室では、VTR、CD-ROM、LD、DVDなどの豊富に取り揃えた資料(映画、ビデオ教材、語学資料など)をゆったりと視聴できます。



情報処理・ネットワーク機能

Facilities of information Processing & Network
並列サーバ、図形画像処理サーバなどのコンピュータを設置して最先端の研究を支援しています。学内の施設をキャンパスLANによって結び、世界に発信するネットワークシステムの拠点としての役割を果たしています。



学術・文化交流

Open Forum

同時通訳ブースを備えた会議室では、国際会議や学会が開催されます。学会や会議参加者のための研究者交流室、大学主催の公開講座などに使用する文化交流室、少人数で使用するグループ研究室が学術交流の場を提供しています。学生専用で設けられた明るいグループ学習室は、勉強や討論に活用されています。また、図書市民利用制度を設けて地域社会に解放し、市民の生涯学習にも役立っています。



情報処理教育

Education in information Processing

情報処理演習室では、情報リテラシーを中心とした全学共通教育が行われます。情報処理教育実験室にはインターネットに接続された約100台の端末が設置され、学生に提供されています。全学生に入学時からメールアドレスが与えられ、自宅から大学にアクセスすることも可能です。



学術研究

Research

21世紀の実学を求めて、総合的な情報学を確立します。図書館情報学部門、データベースを含むメディアシステム部門、コンピューティング部門、ネットワーク部門からなる教員組織は、全学の情報処理教育を行うとともに、情報学に関連する総合的な研究やコンピュータシステムの運用・利用技術に関する研究、種々のアプリケーションシステムの開発などを行っています。



学術・文化が交流する
国内有数規模の創造拠点。